



センバツでの意気込みを語る奥村主将

「感動与える試合を」

センバツ壮行式 光星ナイン抱負

第88回選抜高校野球大(子園)に出場する八学光会(20日から12日間・甲子園)の壮行式が9

日、同校体育館で開かれた。選手たちは「一戦必勝で全力で戦う」と、3年連続9回目となる聖地での健闘を誓った。

センバツの入場行進で使用される音楽が流れる中、ナインは1、2年生と教職員約800人の拍手に迎えられ入場。橋場保人校長は「全校一丸と

なり、地域のみなきまの期待に応えるよう頑張ろう」と激励した。

仲井宗基監督は「今大会は八戸の八、八戸学院

光星の八が重なり合っているのと同じ」88回大会。運命的なものを感じながら、しっかりとしたゲームを展開したい」と抱負。2月2日に92歳で死去した中村キヤ学院長にも触れ「校歌をつくってくださったキヤ先生に、校歌を届けられるように頑張る」と語った。

奥村幸太主将は「青森

県、東北の代表として先を見ず、一戦一戦全力で戦い、感動を与えられるような試合をしたい」と力強く抱負を述べた。

組み合わせ抽選会は11日午前に大阪市で行われる。ナインは10日に八戸市を出発し、12日から練習試合9試合をこなして大会に備える。壮行式後は、全農県本部と青森米本部が同校野球部にコマ(青天の霹靂へきれき

120キ、ナガイモ30キ、リンゴ50キなど県産品を贈った。(本田海輝)